特集

ヤマサスタッフの Room Tour

日々、お客様に寄り添いながら
家づくりを行っている、
ヤマサハウスのスタッフたち。
彼らの暮らしの拠点となる住まいも、
当社が手がけています。
そこで今回は、ヤマサスタッフの住まいを訪ね、
家づくりのポイントや工夫した点などを
語っていただきました。

ヤマサスタッフの
Room Tour
#01

たくさんのお客様の住まいに触れてきて得た、さまざまな知識と工夫を活かして

ご夫婦と2歳、0歳の男の子の4人家族。出産前に家づくりをスタートし、子育てを想定した住まいはこだわりと工夫が詰まっています。

理想と現実のバランス 知識を活かした工夫が満載

ヤマサハウスの情報システムを担当する谷山恭平さんと、長く広報担当をし、現在、育児休暇中の絵莉菜さん宅。広報の経験から、多くの住まいを見ており夢は広がるばかりでしたが、実際にはさまざまな条件で実現が難しいこともあったのだとか。そこで、"家が広く感じられる工夫"をたくさん取り入れました。「LDKをひと続きにしてリビング部分の天井を高くしたり、和室をリビング横に併設したりしました。さらに、空間に圧迫感を出さないように、和室の扉は引き込み式で収まるものを採用。あとは床材の木の向きを長手方向にして、視覚的に広く見えるようにしました」。工夫がいっぱい詰まった、木のぬくもりも感じられる住まいは、「ヤマサハウスらしい雰囲気の家」になりました。

施主になり再確認した ヤマサハウスの魅力

今回、施主となりヤマサハウスの家づくりを経験した恭平さんは、「住宅ローンなど、家を建てたことで初めて具体的に考えたこともあり、改めてお客様の目線を持つことができました。社内の仕事の流れを考えることも業務のひとつですが、改善点も見えやすくなったので、今後の仕事に活かしていきたいですね」。一方、「メンテナンスがとても丁寧で感激しました」と絵莉菜さん。「点検で気になることを伝えたらすぐに補修の手配をしてくれたり、こちらが気づいていなかった部分の異常に気づいて部品交換してくれたり。家づくりをしてヤマサハウスの魅力を再確認できたのは、良かったです」と話しました。

Pickup point
1
キッチンのシンク下の収納は白色、リビングから見える後ろの棚は木目に。インテリアコーディネーターのアイデアを取り入れた。

Pickup point
2
玄関とリビングの間に、空間のアクセントにもなるネイビーの扉にチェッカー窓を採用。お客様の住まいで見てから憧れていたそう。

Pickup point
3
子ども部屋は"2ドア1ルーム"に。子どもたちが大きくなったら、扉で簡単に仕切ることができて工事も不要。

Pickup point
4
ひと続きのLDKは、家づくりの大きなポイント。キッチンで調理をしながら、リビングで遊ぶ子どもたちの様子が見られるので安心。

設計士の視点

太陽光発電を載せたいという要望や、「かわいい家」が好みということを踏まえて内外観を設計。2階部分を平入の屋根、玄関上部は三角屋根にし、格子窓も採用して洋風のかわいい外観に仕上げました。

テレビ絆の家
でも配信中！

Pickup point
1
寝室の奥にあるのは書斎スペース。設計士に遊び心で「隠し扉とかおもしろいですね！」とご主人が話したら盛り上がって、実現。

Pickup point
2
キッチンとダイニングをひと続きにして、食事の準備もスムーズに。共働きで忙しい毎日の中、家族で食卓を囲むのが幸せな時間。

Pickup point
3
現在はキッズスペースになっているロフト。物が少ないスタイリッシュな部屋を保つため、将来は物置として活用する予定。

ご夫婦と4歳、2歳の男の子の4人家族。インテリアコーディネーター目線で考えられた、インテリアのこだわりがたっぷり詰まっています。

ライフスタイルに合わせたインテリアは利便性も併せ持つ

「信頼関係のあるスタッフとの家づくりは、とても楽しかったです」と話すのは、ヤマサハウスのスタッフである奥様。インテリアコーディネートは、自ら手がけました。

「主人はモノトーンが好みで、私は飽き性のためインテリアで雰囲気を変えられるように、あえてシンプルに。とはいえ、小さな子どもがいて無機質になると生活スタイルに合わないので、床は傷つきにくいオークの床材を採用したり、白と黒以外にも木を加えたりして3色のトーンにしました」。コンセプトがきっちりと決まった家づくりは迷いが少なかったそうですが、「どうしてもデザイン性と利便性を天秤にかけなくてはならないときは、中間を選ぶように心がけました」と話します。

使い勝手を実感してお客様へのご提案にも変化

新居で生活を始めてから使い勝手が実感できて、お客様へのご提案にも変化が。「例えば、“タスク・アンビエント”という言葉通り、部屋全体を照らす必要はなく、照明は使う場所にあればいいと感じました。シーンに合わせて調光できる照明も良さを実感できて、お客様におすすめしています」。

また、家づくりは、生活スタイルに合わせることが大切だと改めて感じ、「お客様から生活スタイルを伺って、より良いご提案につなげていきたいですね」と話します。そして、信頼できるスタッフとの家づくりを楽しんだ自身の経験から、「これからもお客様から信頼していただけるように取り組んで、ぜひ家づくりの楽しさをお客様にも体感していただきたいです！」と話しました。

設計士の視点

コンセプトは「家族がつながる」。LDKは集木ワイドフレーム※で空間を広々と演出し、LDKと2階の個室に吹き抜けを設けることで、どこにいても家族の気配が感じられる住まいになっています。

テレビ絆の家でも配信中！

※特許力壁Kを使用することで、柱の数を減らして、大空間を実現できる当社独自の工法。

ヤマサスタッフの
Room Tour
#02

自ら手がけたインテリアは生活スタイルに合わせて、家族に“ちょうどいい”コーディネートに